

環境研究所紀要第12号：目次,投稿・執筆要項,奥付

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2023-04-19 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://mu.repo.nii.ac.jp/records/2092

武蔵野大学環境研究所紀要

THE BULLETIN MUSASHINO UNIVERSITY
Institute of Environmental Sciences

第 12 号

No.12

目 次 CONTENTS

VUCA・持続不可能な時代とサステナブルイノベーション・SDGs・ESD Sustainable Innovation and SDGs・ESD in times of VUCA・Unsustainable	長岡素彦 Motohiko NAGAOKA	1
政策と連動する気候変動教育の実践と評価： 「気候変動のおかやま学」実践塾のケース Practice and Evaluation of Climate Change Education Linked to Policy: Case of Practical Cram School of “OKAYAMA-GAKU of Climate Change”	白井信雄 Nobuo Shirai	13
ミールキットによる食品廃棄物最終処分量の削減の可能性について Meal kits have a potential to reduce final food Waste.	門多真理子・菊池史華 Shimizu-Kadota, Mariko・Kikuchi, Fumika	29
文化から考える生物多様性－紅葉の図を通して Biodiversity revealed by considering Culture: through pictures of autumn leaves	清水玲子 SHIMIZU Reiko	39
地下水環境におけるマイクロプラスチックの輸送動態 Review of Microplastics behavior in the Groundwater	八十歩奈央子・真名垣聡 YASOBU Naoko・MANAGAKI Satoshi	51
大気中水分の液化技術の可能性分析 Possibility analysis of atmospheric moisture liquefaction technology	羽地朝新 Choshin Haneji	61
UNFCCC Post-COP26 の課題 －パリ協定の実効性、エネルギー保障、石炭火力、CCS UNFCCC Post – COP26 Issues － Effectiveness of Paris Agreement, energy security, coal powers, CCS	横山隆壽 TAKAHISA YOKOYAMA	67
テキストマイニングを用いた環境研究所紀要の内容分析 Content Analysis of the Bulletin of Musashino University Institute of Environmental Sciences Using Text Mining	伊藤伸也 Shinya Ito	85
拡大生産者責任からみた家電リサイクル法の評価と改革方向 ～再生資源の行方、責務の分担および産業組織～ Study of Home Appliance Recycling Law in terms of Extended Producer Responsibility ～ Whereabouts of recycled materials, Balance of responsibilities and Industrial organization ～	武山尚道 TAKEYAMA Hisamichi	93

武蔵野大学環境研究所
Institute of Architecture, MUSASHINO UNIVERSITY

2023

武蔵野大学環境研究所紀要投稿・執筆要項

1. 目的

武蔵野大学環境研究所紀要(以下「紀要」という)は、武蔵野大学(研究所・大学院を含め以下「本学」という)の教員および大学院学生等の研究成果(以下「論文」という)を年1回公表することを目的とする。

2. 投稿資格

- (1) 紀要に投稿できる者は、①嘱託・客員・非常勤を含む本学教員・研究員ならびに大学院学生・研究生、②本学関係者で紀要編集委員会(以下「委員会」という)が認めた者、③委員会が投稿を依頼した者、とする。なお以上の原則に該当しない場合は、委員会が判断する。
- (2) 前項②の「関係者」とは、大学院を修了・退学した者で本学に提出した修士論文・博士論文に関わる成果を発表しようとする者、および本学の研究活動と密接に関わる成果を発表しようとする者(共同研究の相手方など)、とする。なお、修士論文関連の投稿は論文提出後1年以内、博士論文関連の投稿は論文提出後2年以内に限る。
- (3) 大学院学生・研究生および(1)項②の「関係者」は、事前に指導教員または担当教員の承認を得たうえで、当該教員を通して投稿申し込み、原稿提出、校正刷りの受け渡し等を行う。
- (4) 論文は未公開で和文または英文によるものに限る。なお投稿は1名につき1編とするが、筆頭でない共同執筆者となる場合は複数の投稿を認める場合がある。また筆頭でない共同執筆者の範囲は、論文への相応の貢献が認められる限り、特に制限しない。
- (5) 投稿者は、共著者も含め、投稿論文が電子化され、広く一般に公開されることを前提に、著作権・肖像権等が処理済みであること。

3. 年間スケジュール

- (1) 論文の投稿申し込み期限は毎年7月末日、原稿の提出期限は10月末日とする。
- (2) 紀要の発行は翌年3月とする。

4. 投稿要領

- (1) 電子媒体の原稿と出力イメージの両方を提出する。
- (2) 原稿(和文)はA4判用紙(縦置き)1枚に横書き43字×38行の印字で16枚以内とする。これには、表題から文献リストまで、本文、図、表、写真、抄録等の一切を含む。英文の場合もこれに準じる。
- (3) 和文原稿の表記には、特別な理由がない限り、常用漢字、現代かなづかい、算用数字を用いる。
- (4) 原稿冒頭に約12行分を確保し、①和文表題、②英文表題、③執筆者氏名(和文表記)、④執筆者氏名(ローマ字 or 英文表記)を記載する。なお、冒頭頁の脚注となる執筆者情報は委員会で編集する。
- (5) 図、表、写真の挿入個所は十分な誌面余裕をもって指示し、これらの原稿は、1件/頁の印刷が可能な形式で別ファイルに格納する。なお、イメージファイルについては十分な精細度を持つものに限る。

5. その他

- (1) 論文は無審査を原則とするが、掲載の適切性に疑義がある場合は、委員会の指示にしたがうこと。
- (2) 校正は2回、委員会を介して実施する。校正時に大幅な変更があった場合は、掲載を拒否できる。
- (3) 抜刷は希望者には白黒印刷で10部までは無料、それ以上の部数またはカラー印刷を希望する場合は費用は著者負担となる。
- (4) 論文の著作権は執筆者に帰属する。ただし、紀要の刊行により公表された論文について、本研究所は成果公表目的の範囲内で複製、翻案、公衆送信、リポジトリ(電子アーカイブシステム)等の権利を保有する。

武蔵野大学環境研究所紀要編集委員会

委員長 白鳥 和彦

委員 真名垣 聡

武蔵野大学環境研究所紀要 第12号

2023年 2月28日発行

編集 武蔵野大学環境研究所紀要編集委員会

発行 武蔵野大学環境研究所

〒135-8181 東京都江東区有明 3-3-3

電話 03-5530-7730 (研究支援部学部事務課)

印刷 株式会社創文

〒103-0016 東京都中央区日本橋小網町13-1

電話 03-5643-3320
